

## 委員および一般からの意見

委員からの流域委員会の審議に関するご意見、ご指摘（2002/1/23～2002/2/12）

2002/1/30

メール

原田委員（淀川部会）

---

### 河川管理者への質問・提案

先日時間不足等でできなかつたり、その後考えた質問事項、コメント事項がいくつかあります。簡単ですが記させていただきます。内容不明のときは、電話等でお問い合わせいただければと思います。

#### 1：モデルケースとする雨量について

最初の部会から何度もとりあげられていることであり、いまさら質問するのは、委員としてもはずかしいことなのですが、あえてさせていただきます。

現在は、28年降雨の2倍量を中心に試算結果を示されている。その際、降雨の空間分布は同じ、降雨時間も同じ（すなわち単位時間あたりにふる雨の量が倍）とされていると説明があった。2倍にするときに、そのような設定が現実的なのか？より空間的にも時間的にも分散する（広い範囲に、長い時間をかけてふる）ほうが現実的であるようなことはないか、等の懸念をもつ。気象関係の専門家のコメントがあるとありがたい。

また、「なにがおこるかかわからない」なら、「考えるためのモデルとしてどんなことを考えてもよい」というわけではないのは当然であろう。不確実性のもとで「なにはわかっている（はっきりいえる）が、なにはいえない」等を、現在の設定の現実性、モデルとしての妥当性についてのより詳細な説明とともに、示していただくのが望ましいが、それが十分にはむりであっても、その方向への努力は必要と思う。

#### 2：モデルケース計算時の森林等からの流出の設定等、各地点の流量の計算に用いられているモデルの妥当性、あるいはモデルのもつ不確実性について知りたい。

治水政策をたてるという重要な目的のためのモデルなのであるから、十分なドキュメンテーションが存在するものと想像する。くわしいことを部会で説明することは不可能であろうから、出典等をおしめしいただくとともに、この試算の弱点（不確実性）については部会でもおしめしいただければと思う。

また、試算では28年時点以後につくられたダムは考慮されているが、山の保水力の変化等が考慮されているとは言及がなかったが本当か？

#### 3：堤防のいくつかのオプションについては、コストとメリットで比較されていたが、ダムの治水面での評価も同列に比較できる部分はすべきと考える。

- 4：上野盆地関連の資料での被害軽減の示し方だが，浸水面積と深さでは，効果が小さめに見積もられることはないか。想像だが，河川からはなれた（高い）ところほど財産の集積がある可能性もあろうから。たとえば，被害額の分布地図があるといいのではないかと思った。
- 5：スーパー堤防のコストについては，スーパー堤防設置後の堤防部分の地価の上昇があるなら，それをコストから差し引く（内部化する）ことにより，より低コストになると考える。また，もし地価上昇がありながらそれを内部化しないなら，将来，批判もおこりそうに思う。参考までに，これまで施工された部分での地価の変化（周辺地の地価変化との比較）のデータを示されるといいかと思う。
- 6：前回送りました高水敷へ水をあげる問題についての情報を，次回でなくても結構ですのでお願いします。

一般からの流域委員会へのご意見、ご指摘（2002/1/23～2002/2/12）

	発言者 所属等	傍聴 希望	受 取 日	内 容
1	日本野鳥の 会 中村桂子氏	×	1/26	第 11 回淀川部会（前半：一般からの意見聴取）の進め方について ・会議方法 会場からの意見を求める時間が設けられているにもかかわらず、委員の質問に 時間を取り、発言が出来ないのは大変不本意です。
2	佐竹孝夫氏	×	1/28	第 11 回淀川部会を傍聴した感想が寄せられました。 別紙 1 参照下さい。
3	関西のダム と水道を考 える会 浦野穩正氏	×	1/28	先日は第 11 回淀川部会において、意見発表の機会を頂戴し、ありがとうございました。 今後もこのような機会をお創りください。積極的に参加させて頂きたいと思 います。 当日は、意見聴取の会に十分な時間をお割り頂いた関係から、宮本事務所長様 からの重要なテーマ（治水）の説明が駆け足のような形になったのは大変残念 でした。 再度時間をお取り頂くことは無理でしょうから、1 点だけ質問をお許し願え たらと思います。 質問内容：破堤対策の費用としてお示し頂いたコスト（約 7,500 億円ほか 2 件） の計算根拠をお示しください（計算式とその説明）。 よろしくお願い申し上げます。
4	玉木正豊氏	×	1/29	先日の第 11 回淀川部会で報告させていただいた玉木です。 会議の進め方について以下のような感想を持ちました。老人のお節介か と気が引けますが、ともあれ、ご参考までに。 1．発表時間が短かすぎる。仕方のないことではございますがこれが実感 です。1200 字の文章を 6 分で解説するのは、もともとムリです。 1．質問が特定の報告者にかたよる傾向あり。逆にいうと、質問されれば補 足説明ができます。質問を、ある程度は各人に「振る」よう、司会者の気配 りが欲しい。 1．全くのアマチュア市民は私 1 人のようでしたが、こうした場には、も っと「素人」を参加させるほうが、いいのではないですか。 1．テープから起こして発言記録とするそうですが、その場合は、発言者 に補足・訂正する手順を踏んで欲しい。 ともあれ、私には面白い経験でした。今後のご活躍を祈ります。返信のお気遣 いはご無用です。
5	大阪都島少 年硬式野球 協会 谷口準氏	×	1/30	大阪のグランド事情は野球人口やチーム数を考えると全く悲惨、と言 って過言ではない状況です。あの場所は本当に我々にとってはものすごく 貴重で、いわば生き甲斐とも言える場所です。青少年は勿論の事、大人 までもが悲喜交々、様々な思いをし、またチームを卒団していった人達 には大きな思い出の場所にもなっておりますでしょう。さる卒団生より、 「グランドがなくなれば我々が帰るところがなくなってしまうね」とい う電話も事実ありました。そう、言い換えればそこは「コミュニティ」な のであります。1 万数千の署名の意味

	発言者 所属等	傍聴 希望	受取 日	内 容
				は、そんな我々の活動をよくご存知の人たちが、こんな素晴らしいコミュニティを守るべきだ！という応援意志の表現、ということであります。今回の計画が、本当に地域住民にとって青少年育成よりも、我々のこういった大きな思いよりも重要で、どうしてもこの場所でしか達成できない、ということでしたら我々も諦めざるを得ないかも知れません。しかし、この我々の思いなどが大変大きなものである事、および代替地が他にあるということでありましたら、淀川水系委員の皆様、および国土交通省他関係省庁の皆様、現状視察とその場での意見聴取の上、どうか今回の計画、再考を切にお願いしたいと存じます。尚、これは無論小生個人の意見ではございません。
6	浅野晴也氏	×	1/30	余野川ダムを中止して下さい。 「2001年12月3日付、大阪自然環境保全協会など7団体の余野川ダム中止要請に賛同します
7	奥中久米司氏	×	2/2	第8回猪名川部会を傍聴された感想が寄せられました。 別紙2参照下さい
8	亀岡市桂川改修促進期成同盟 古谷弘志氏	×	2/4	<p>亀岡市域の歴史は、水害との戦いの歴史である。</p> <p>戦後においても、疲弊した国土に、毎年のように風水害が襲い、昭和20年、24年、25年、26年、29年、32年、35年と桂川（保津川）沿川の地域住民の生命、財産を奪ってきたことから、沿川住民として、「亀岡市上桂川逆流防止同盟」を結成し、京都府知事に対し、「保津峡の開削」を要望するべく府庁舎に座り込みを決行した。その後においても風水害は毎年のように地域住民を襲い続けてきた。昭和46年に当時の建設省より、「淀川工事実施基本計画」が策定され、桂川については、「日吉ダムを含む上流ダム群と保津峡狭窄部上流河道改修」により河川の氾濫をなくすことで整備を進めることになり、平成10年には、上流「日吉ダム」が完成した。「河道改修」については、昭和57年出水対応の築堤工事に平成8年から京都府において着手された。</p> <p>「亀岡市桂川逆流防止同盟」としては、結成以来河川管理者に対し要望活動を続けてきたが、平成元年から「亀岡市桂川改修促進期成同盟」と名称を変更し現在まで京都府管理区間のみならず近畿整備局及び淀川工事事務所へ要請・要望を行うなど上下流区別なく改修促進活動を続けている。</p> <p>淀川の治水事業は、上流、下流域がそれぞれバランスのとれた改修計画により行われてきたものであり、下流への流出量をおさえるため、上流沿川地域住民は、自らの血を流し協力してきた。最近になって、「淀川水系流域委員会淀川部会」において、桂川の治水計画が、木津川上流狭窄部岩倉峡と同じような、「遊水池」による下流域への流出量を抑える事が適当であるかのような議論がされていると聞き及んでいる。我々としては、本来桂川の治水計画には、「遊水池」計画はなく、木津川流域と同種のものと考えられていることに対し非常に不満である。</p>

	発言者 所属等	傍聴 希望	受取 日	内 容
				また、このような下流大都市域の負担を一方的に上流域に押しつけるような議論が、上流の意見なくして行われていることは、決して許されるものではない。このような議論の場において、発言の機会が制限されることに危機感をもっている。亀岡市桂川改修促進期成同盟としても機会あるごとに上下流域の河川整備に協力するとともに、過去、何十年、何百年水害と治水の歴史、「痛み」を風化させることなく伝えていく努力をしていきたいと考えている。 今後は、上流沿川住民の意見を聞く場を設定されるようお願いする。
9	大阪自然環境保全協会 岡秀郎氏	×	2/6	余野川ダムに対するご意見が寄せられました。 別紙3参照下さい
10	東野更正氏	×	2/12	会議開催場所についてご意見が寄せられました。 南湖に偏らず北湖の方で開催されるのも住民の関心を深めるのには良い機会だと思います。

## 猪名川、藻川への想い

尼崎造園事業協同組合 専務理事

榎 本 利 明

有史以来氾濫が繰り返された猪名川藻川の河川改修は、地域住民の切なる願いであったが、国土交通省の「利倉捷水路計画」として大改修工事が進められ、昭和44年に完成を見て、尼崎の流域住民は安心して日々を過ごすことができるようになった。また「猪名川の自然と文化を守る会」の熱心な取り組みにより、猪名川廃川敷に多くの自然が残され都市の大オアシスとなっていることは慶賀にたえない。しかしながら、住民の意識は時が過ぎるにつれ、河川改修の喜びが失われつつある。感謝のための記念日などを設け、防災への心構えなどの喚起も行って関心を高めていかなければならない。

河川堤防をはじめ河川敷は、尼崎は、最高度に利用されていることを喜ぶ次第であるが、環境改善のためビオトープなどを取り入れて虫や鳥の憩う場作りも必要であろう。従ってある程度雑草を残すなどの維持管理が望まれるとともに、野草、宿根草や低木などを植えて「花の咲く堤」づくりをする場も考えていくべきであろう。

また、現在藻川堤防が舗装を行わず、散歩道として市民に親しまれている。島の内(猪名川、藻川に囲まれた地域)全域の堤防が全行程を車が乗り入れず安心して歩いたり、ジョギングができるように、配慮した堤防作りが望まれる。

現在尼崎市では、猪名川自然林(猪名川廃川敷)周辺の地域を対象に尼崎市政80周年記念振興事業として「自然と文化の森整備構想」の策定が進み、尼崎市、市民、事業者が協働で構想を進めるグラウンドワークの実践が試みられている。猪名川、藻川堤防と河川敷についても、市民の憩いの場として、子どもたちの環境教育の場としての機能が求められている。

また、地元市議会議員や地元農家、市民らが、河川敷に植物を植える試みをはじめており、猪名川工事事務所との交渉の末、今年の春には、チューリップの花壇が市民の目を楽しませた。最近ほとんど堤防で見かけなくなった彼岸花なども植えていきたいと考えている。その他、河川の清掃活動など、いくつかの市民グループが河川にかかわる活動を続けている。このように、独自の活動が育っていることはよいことであるが、今後ネットワーク作りなどで、統一の認識を育てることも課題といえる。

尼崎市みどり課長、緑政部長として、長年尼崎市の緑化に取り組んできたが、公園、街路樹などでは限界があり、河川敷の緑化は生涯最後の課題と考えている。治水、利水の重要さを無視するものではないが、河川の環境を豊かにすることを望む市民の声も大きくなってきている当市の実情を知っていただきたい。

山から海までの総合的な水保全と管理の方策

- ・水源林の保全
    - 水量・水質の保全
  - ・農地・水田の保全
    - 地下水の涵養、集中豪雨での溢水抑制、水質浄化
  - ・汚濁発生源対策(点源・面源負荷の削減)
    - 林地・農地からの負荷の削減
    - 畜産業排し尿負荷の低減
    - 工場・事業所からの負荷の削減(自社排出及び高度汚濁物質販売の低減)
    - 家庭からの負荷の削減
    - (社会人教育、学校教育、意識革命及び軽減への住民参加)
  - ・側溝・水路での対策
    - 自然浄化の有効利用
    - 豪雨貯水
    - 未処理下水の絶無化
    - 浸透性側溝
    - 木炭などの利用
  - ・河川での対策
    - 河川敷周辺の汚れ防止
    - 自浄作用の有効利用(自然型河川の保全・創生)
    - 全河川放流点での定期的水質計測と異常時の連絡システム
  - ・下水処理場
    - 高度処理化
    - 集中豪雨時の河川排出抑制計算
  - ・河口・沿岸域での対策
    - 水生植物・干潟・藻場での自浄作用の有効利用
- 追記

大阪府農林環境部指導の元に生まれた ENO (エコロジーネットワーク大阪) のメンバーに H14 水環境教育の基本を作成しました。Detail は後に作る予定です。

### 名張川河川改修についての提言(意見)

木津川上流域に位置します「名張市」は、名張川・青連寺川・宇陀川が旧市街地で合流し、名張川として市街地を貫流する清らかな水と豊かな緑に恵まれた美しい自然都市であり累年の住宅開発により京阪神方面からの転入が進み現在 85,000 人余の伊賀地域最大の街になっており、まちづくりの基本理念を「居心地のよいふるさとづくり」として快適生活都市を目指しているところであります。

当市にとって、過去幾多の水害により被害が発生しており伊勢湾台風時には未曾有の大災害となり、名張川の河川改修の早期完成は住民の積年の願望であります。比奈知ダム建設時までの改修事業の完了目標をも掲げて順次改修事業を継続してもらっていますが、完成までには相当の期間をまだ要するものと考えられ、市街地を貫流することから局地的集中豪雨等の河川災害が危惧されますので、人命財産の保持から何よりも河川の早期改修が急務であります。

河川改修完了区間の河川区間につきましては、それぞれのまちが「まちづくり協議会」等を結成して河川と共にした様々なまちづくり運動を展開しつつあり、工事施工にあたっては河川改修本来の目標にとどまらず、住民が親しみをもつことができる施設（例えば、河川に擬石や河床掘削される岩で「中洲」等を設け市民のコミュニティ広場とした、川に親しみ水遊びや魚釣りができるような「憩の場」とか）として対応をお願いします。

### 1、桂川の宮前橋の池と小湿地の保全

桂川の宮前橋の下の高水敷きに池（防火用水の池）と小湿地があります。私たちはそこで7種の絶滅危惧植物を見つけました。（1999年）

この植物を保全するために、この湿地環境を残すよう要望します。具体的な内容を記します。

- 1) この地域の絶滅危惧植物の調査を系統的におこなってほしい。その上でこの湿地環境を保護する区域として指定してほしい
- 2) 提体のセットバック工事計画があるが、幸運にもこの湿地環境は残せる方向である。問題は橋のかけかえであるが、湿地環境を保全するよう配慮した計画を立ててほしい。
- 3) 一般に河原の植生は大水による攪乱で維持される。この湿地環境は高水敷きにあり、そこまで水をかぶることはほとんどない。従って湿地環境を維持するには高水敷きを削るか、あるいは水路により常に水を供給するかである。それができるまでの間は、適宜に重機による表土攪乱を実施してほしい。

### 2、大山崎町の「自然区」の植生復活

この自然区は長さ1.5 kmに及ぶ広大な高水敷きであるが水面より4 m高い。（その原因は流域下水道を埋めたとき、その土を積み上げたことである。）

従って乾燥し、外来植物が繁茂し、桂川の昔の植生の面影は全くない。それを復活させるためには積みあげた土を削り、大水による攪乱をもたらすか、小泉川から水路で水を引くかである。そうして植生を復活しなければ自然区という名に値しない。現代の土木技術ではいずれも可能なことである。検討してほしい。